

第 4 回農産物検査規格・米穀の取引に関する検討会で伺いたい事項について

大坪 研一

1 第 4 回検討会で伺いたい事項

本検討会は、本年 7 月の規制改革実施計画を受けて農林水産省が設置し、これまで、農業者等の現場の声、穀粒判別器等の関連技術の動向、海外・他分野の規格・サンプリング方法や研究・実証の動向等についてヒアリングを行ってきた。

第 4 回検討会以降、具体的な内容を検討していくこととなるが、第 4 回検討会では、本検討会の検討事項全般について委員より御意見を伺い、それを踏まえて第 5 回以降の検討会において、事務局より見直しの内容（フラッグ）と実現までの行程（ロードマップ）の案を示すこととしたい。

このため、特に、第 5 回・第 6 回検討会で議論を行う以下の①～③の事項については、ご意見をいただきたい。

① 1 等、2 等区分の等級区分と名称の見直し、目視等の人的鑑定項目の客観化と穀粒判別器等による機械的計測への早期の変更

これまでの検討会で意見があった機械鑑定の場合の規格を策定することについても、整粒や形質に変えて容積重や白未熟粒を活用すること等も含め、委員のお考えを伺いたい。

また、機械鑑定の場合の規格を策定する際には、測定値がデジタルで示すことができることから、等級区分が必要かどうかや、その名称の在り方についてもご意見を伺いたい。

② 検査方法等の徹底した合理化による負担軽減と検査コスト低減

第 3 回検討会で他分野のサンプリング方法を伺った。サンプリングの簡素化は検査コストの低減に極めて有効と考えられるが、これについても委員のご意見を伺いたい。

③ 輸出や高付加価値化に向けて民間主導の J A S 制定の支援

新たな J A S については、第 3 回検討会において、米のスマートフードチェーンと J A S について有識者からヒアリングを行った。

スマートフードチェーンと J A S は、米の輸出や高付加価値化に有効とも考えられるが、これについても委員のご意見を伺いたい。

また、第4回検討会では消費者のニーズを熟知するお米マイスターから話を伺う予定としているが、これを踏まえ、消費者のニーズを踏まえた規格とする観点からも委員のお考えを伺いたい。

④ 都道府県ごとの「産地品種銘柄指定」の見直し

産地品種銘柄については、設定に時間を要することや、設定されていない都道府県では「その他銘柄」としか証明されないこと、目視での品種鑑定は現場の検査員の負担が大きいこと等が課題として挙げられている。

このような課題を解決する観点から、ご意見があれば伺いたい。

⑤ 量目、荷造り及び包装規格の簡素化

現在、農産物検査規格では、紙袋について4種類の規格が存在し、それぞれ材料、荷造り、形状が定まっているが、その簡素化に向けて、ご意見があれば伺いたい。

⑥ 穀粒判別器等の普及と精度向上に向けた技術開発の推進

現在、令和3年度予算概算要求において、「AI画像解析等による次世代穀粒判別器の開発」が要求されている。このような状況も含め、ご意見があれば伺いたい。

⑦ 皆掛重量についての検査、余マスの見直し

余マス等の商慣習については、「米穀の商慣習に関する意見交換会」を開催し、アンケート調査等を行っているところであり、その結果について検討会に報告いただいた上で議論したいと考えているが、現時点でご意見があれば伺いたい。

2 検討スケジュール

本検討会は、以下のスケジュールを基本として検討を進める。

また、5月のとりまとめを待たずに、早期に結論を得られるものは順次、本検討会として結論を得ることとし、1ヶ月、2ヶ月でも早期に実行に移す。

第4回

- ・有識者からのヒアリング
(お米マイスター)
- ・各委員からご意見を聴取(全般)
- ・検討課題の整理

- 第5回・第6回
- ・等級区分と名称見直し
 - ・機械的計測への早期の変更
 - ・検査コスト低減
 - ・新たなJAS（輸出や高付加価値化についてのご提案も歓迎）
- 第7回・第8回
- ・都道府県毎の産地品種銘柄の見直し（手続き含む）
 - ・量目・荷造り・包装規格の簡素化
 - ・皆掛重量についての検査、余マスの見直し
- 第9回（5月頃）
- ・とりまとめ